

### 2024 年度学会賞・学会功労賞・奨励賞・ 女性 Analyst 賞候補者推薦について

日本分析化学会は、2024 年度の学会賞・学会功労賞・奨励賞・女性 Analyst 賞受賞候補者の推薦を受け付けております。

日本分析化学会会員で、標記候補者の推薦を希望される方は、下記の規程を参照のうえ、10 月末日までに所属支部の学会賞・学会功労賞・技術功績賞・奨励賞・女性 Analyst 賞候補者推薦委員会あてに、推薦理由書 [A4 判（縦に使用）用紙に 1,200 字以内] に文献リストと候補者の略歴を添えて、文書及び電子ファイルの双方にて、お申し出ください。

#### 『学会賞規程』

- 第 1 条 本会に学会賞（以下本賞という）を設け、本会の正会員にして分析化学に関する貴重な研究をなし、その業績を本会論文誌及びその他の論文誌に発表した者の中から、特に優秀なる者にこれを贈呈する。但し、学会功労賞受賞者及び技術功績賞受賞者は受賞できない。又、同一年度の学会功労賞及び技術功績賞の受賞候補者となることはできない。
- 第 2 条 本賞の贈呈は、毎年 3 件以内とする。
- 第 3 条 本賞は、賞状及び賞牌とし、年会において贈呈する。
- 第 4 条 本賞を受けた者は、年会において学会賞受賞講演を行う。
- 第 5 条 会長は、各支部長に推薦を依頼するほか、毎年会誌「ぶんせき」7 号に本賞候補者の推薦に関する会告を掲載する。
- 第 6 条 支部長は、各支部ごとに学会賞・学会功労賞・技術功績賞・奨励賞候補者推薦委員会（以下支部推薦委員会という）を設ける。
- 第 7 条 会員は、その所属する支部推薦委員会に 10 月末日までに候補者を推薦することができる。
- 第 8 条 候補者の推薦に当たっては、所属支部の範囲に拘泥せず、全国的視野において行う。
- <以下省略>

#### 『学会功労賞規程』

- 第 1 条 本会に学会功労賞（以下本賞という）を設け、本会の正会員にして日本分析化学会及び分析化学の発展に多大な貢献をなした者で、受賞の年の 1 月 1 日現在、30 年間以上引き続き本会会員であり、満 55 歳以上の者にこれを贈呈する。但し、学会賞受賞者及び技術功績賞受賞者は受賞できない。又、同一年度の学会賞及び技術功績賞の受賞候補者となることはできない。
- 第 2 条 本賞の贈呈は、毎年 5 件以内とする。
- 第 3 条 本賞は、賞状及び賞牌とし、年会において贈呈する。
- 第 4 条 会長は、各支部長に推薦を依頼するほか、毎年会誌「ぶんせき」7 号に本賞候補者の推薦に関する会告を掲載する。
- 第 5 条 支部長は、各支部ごとに学会賞・学会功労賞・技術功績賞・奨励賞候補者推薦委員会（以下支部推薦委員会という）を設ける。
- 第 6 条 会員は、その所属する支部推薦委員会に 10 月末日までに候補者を推薦することができる。
- 第 7 条 候補者の推薦に当たっては、所属支部の範囲に拘泥せず、全国的視野において行う。
- <以下省略>

[注記] 学会功労賞は、次のような業績が対象となります。

- (1) 本会の発展に対する功績、(2) 分析化学の教育における功績、(3) 分析化学の国際交流における功績、(4) 本会の本部・支部の役員としての功績、(5) 本会の各種委員会・研究懇談会における功績、(7) 本会の本部・支部事業等における功績、(8) その他分析化学による社会的功績

#### 『奨励賞規程』

- 第 1 条 本会に奨励賞（以下本賞という）を設け、本会の正会員にして受賞選考の時期までになされた分析化学に関

## お知らせ

する研究が独創的であり、将来を期待させる研究者で、受賞の年の4月1日現在で満38歳以下の者に、女性もしくは企業に所属する者については受賞の年の4月1日現在で満45歳以下の者に贈呈する。

② 研究業績は、本会論文誌又はその他の論文誌、及び特許等の知的財産を対象とし、いずれも公表されたものでなければならない。

③ 受賞の基礎となる研究業績が共同研究の場合は、主たる研究者について適用する。

第2条 本賞は、毎年5件以内とする。但し、大学及び公的研究機関に所属する者については4件以内とする。1件以上は企業に所属するものに授与することが望ましい。

第3条 本賞は、賞状及び賞牌とし、年会において贈呈する。

第4条 本賞を受けた者は、年会において奨励賞受賞講演を行うほか、本会論文誌「分析化学」に受賞研究に関する論文を投稿しなければならない。

第5条 会長は、各支部長に推薦を依頼するほか、毎年会誌「ぶんせき」7号に本賞候補者の推薦に関する会告を掲載する。

第6条 支部長は、各支部ごとに学会賞・学会功労賞・技術功績賞・奨励賞候補者推薦委員会（以下支部推薦委員会という）を設ける。

第7条 会員は、その所属する支部推薦委員会に10月末日までに候補者を推薦することができる。

第8条 候補者の推薦に当たっては、所属支部の範囲に拘泥せず、全国的視野において行う。

<以下省略>

### 『女性 Analyst 賞 規程』

第1条 本会に女性 Analyst 賞（以下本賞という）を設け、本会会員、非会員にかかわらず、分析化学に関する優秀な業績をあげた女性研究者、女性技術開発者あるいは女性企業経営者に、これを贈呈する。但し、学会賞、学会功労賞、技術功績賞受賞者は、受賞できない。また、同一年度の学会賞、学会功労賞及び技術功績賞の受賞候補者となることはできない。

第2条 本賞の贈呈は原則として毎年2件以内とする。

第3条 本賞は賞状及び賞牌とし、年会において贈呈する。

第4条 本賞を受けた者は、年会において女性 Analyst 賞受賞講演を行うほか、本会論文誌「分析化学」に受賞研究に関する論文を投稿しなければならない。

第5条 会長は、各支部長、研究懇談会委員長並びに本会女性研究者ネットワークに推薦を依頼する。

第6条 推薦者は、1月末日までに推薦書、推薦理由書、履歴書及び説明資料を会長に提出する。

第7条 本賞候補者の選考は、女性 Analyst 賞審査委員会（以下審査委員会という）において行う。

<以下省略>

### 2024年度技術功績賞候補者推薦について

日本分析化学会は、2024年度の技術功績賞受賞候補者の推薦を受け付けております。

日本分析化学会会員で、標記候補者の推薦を希望される方は、下記の規程を参照のうえ、所属支部長又は団体会員（維持会員、特別会員及び公益会員）代表者にお申し出ください。

### 『技術功績賞 規程』

第1条 本会に技術功績賞（以下本賞という）を設け、本会会員にして分析技術の向上、あるいは、分析技術による社会的貢献に関し、業績の著しい者の中から、特に優秀なる者にこれを贈呈する。本賞は、本会正会員を中心とするグループに贈呈することもできる。但し、学会賞受賞者及び学会功労賞受賞者は受賞できない。又、同一年度の学会賞及び学会功労賞の受賞候補者となることはできない。

第2条 本賞の贈呈は、毎年3件以内とする。

第3条 本賞は、賞状及び賞牌とし、年会において贈呈する。

第4条 本賞を受けた者（グループにおいてはその中心になる者）は、年会において技術功績賞受賞講演を行うほか、本会論文誌「分析化学」に受賞研究に関する論文を投稿しなければならない。

第5条 会長は、各支部長に推薦を依頼するほか、毎年会誌「ぶんせき」7号に本賞候補者の推薦に関する会告を掲

## お知らせ

載する。

第6条 会員は、候補者を所属支部の支部長又は団体会員代表者に推薦することができる。

第7条 支部長又は団体会員（維持会員、特別会員及び公益会員）代表者は、候補者を会長に推薦する。

第8条 候補者の推薦に際しては、次の書類を1月末日までに会長に提出する。

a) 推薦書 [所定の用紙], b) 推薦理由書 [A4判用紙を縦(1行45字×40行)に使用し、本文及び業績リスト(主要なもの)はそれぞれ2頁以内で作成すること], c) 被推薦者履歴書 [所定の用紙], d) 説明資料 [特に重要な報告の別刷など審査の参考となる資料]

<以下省略>

[注記]

- 1) 推薦書の団体会員代表者は、本会に登録されている代表者名を記入してください(代表者を変更される場合は、あらかじめ変更届を提出してください)。
- 2) 所定の推薦書類を入用の場合は、返信用封筒(切手120円添付)を同封のうえ、下記技術功績賞係あてにお申し出ください。なお、電子ファイルをご希望の場合は shomu@jsac.or.jp へご連絡ください。
- 3) 推薦書類提出期限: 2024年1月末日(郵送の場合は、当日消印のあるものまで受理します)。なお、推薦理由書が規程(上記第8条b)の書式、枚数)に従っていない場合は受理しません。
- 4) 推薦書類提出先: 〒141-0031 東京都品川区西五反田1-26-2 五反田サンハイツ304号 公益社団法人日本分析化学会技術功績賞係 [電話: 03-3490-3351]

### 2024年度先端分析技術賞候補者推薦について

日本分析化学会は、2024年度先端分析技術賞受賞候補者の推薦を受け付けております。

標記候補者の推薦を希望される方は下記の規程を参照のうえ、10月末日までに日本分析化学会のいずれかの支部の支部長または研究懇談会の委員長並びに(一社)日本分析機器工業会専務理事(JAIMA 機器開発賞)あてにお申し出ください。

#### 『先端分析技術賞規程』

第1条 本会に先端分析技術賞(以下、本賞という)を設け、先端的分析技術開発(機器開発、分析・評価技術開発、分析用新規物質の開発、など)や実用化において、優秀なる業績と展開性を示した個人あるいはグループにこれを贈呈する。

第2条 本賞は、(一社)日本分析機器工業会(以下JAIMAという)のスポンサーシップによるJAIMA 機器開発賞によって構成される。

第3条 本賞は、毎年2件以内とする。

第4条 本賞は、賞状、賞牌及び副賞とする。

第5条 本賞を受けた者は、受賞記念講演を行うほか、本会論文集「分析化学」に受賞研究に関する論文を投稿しなければならない。

第6条 本会会長は、毎年会誌「ぶんせき」7号に本賞候補者の推薦に関する会告を掲載するとともにJAIMA 機関誌夏号に掲載を依頼する。

第7条 本賞への応募者は自薦・他薦を問わず、本会支部長、本会研究懇談会委員長またはJAIMA 専務理事あてに必要な書類を定められた期日までに提出する。

第8条 支部長、研究懇談会委員長またはJAIMA 専務理事は、候補者を会長に推薦する。

第9条 候補者の推薦に際しては、次の書類を1月末日までに会長に提出する。

a) 推薦書 [所定の用紙], b) 推薦理由書 [A4判用紙を縦(1行45字×40行)に使用し、本文及び業績リスト(主要なもの)はそれぞれ2頁以内で作成すること], c) 被推薦者履歴書 [所定の用紙], d) 説明資料 [特に重要な報告の別刷など審査の参考となる資料]

<以下省略>

☆ ☆

## お知らせ

【照会先】支部の推薦委員会並びに研究懇談会宛先は下記のとおりです。

- 北海道支部 : 〒060-8628 北海道札幌市北区北 13 条西 8 丁目 北海道大学大学院工学研究院応用化学部門内  
jsac-hb@w9.dion.ne.jp
- 東北支部 : 〒980-8579 宮城県仙台市青葉区荒巻字青葉 6-6-07 東北大学大学院環境科学研究科先端環境  
創成学専攻  
kumagai@tohoku.ac.jp
- 関東支部 : 〒141-0031 東京都品川区西五反田 1-26-2 五反田サンハイツ 304 号 (公社)日本分析化学会  
内  
jsac-kanto@jsac.or.jp
- 中部支部 : 〒460-0011 愛知県名古屋市中区大須 1-35-18 中部科学技術センター内  
s.matsushita@c-goudou.org
- 近畿支部 : 〒550-0004 大阪府大阪市西区靱本町 1-8-4 大阪科学技術センター内  
mail@bunkin.org
- 中国四国支部 : 〒739-8526 広島県東広島市鏡山 1-3-1 広島大学大学院先進理工系科学研究科分析化学研究  
室内  
ishizaka@hiroshima-u.ac.jp
- 九州支部 : 〒870-1192 大分県大分市旦野原 700 大分大学理工学部  
jsac\_kyushu@jsac.jp

### 研究懇談会

- 液体クロマトグラフィー : nakamura@jsac.or.jp
- ガスクロマトグラフィー : satoh@niu.ac.jp
- 高分子分析 : infopacd@pacd.jp
- X 線分析 : k-tsuji@omu.ac.jp
- 化学センサー : hisamoto@omu.ac.jp
- 有機微量分析 : orgmicro@jsac.jp
- 分析試薬 : iki@tohoku.ac.jp
- 電気泳動分析 : yishiham@pharm.kyoto-u.ac.jp
- イオンクロマトグラフィー : ic@jsac.jp
- フローインジェクション分析 : jafia@aitech.ac.jp
- 環境分析 : kumata@ls.toyaku.ac.jp
- 表示・起源分析技術 : kigen@jsac.jp
- 熱分析 : y24moto@kanagawa-u.ac.jp
- 化学分析技能 : koguma@faculty.chiba-u.jp
- 溶液反応化学 : yumescc@chem.sc.niigata-u.ac.jp
- 電気分析化学 : maedak@kit.ac.jp
- ナノ・マイクロ化学分析 : tokeshi@eng.hokudai.ac.jp
- バイオ分析 : info\_bioanalysis@yoshimotolab.c.u-tokyo.ac.jp
- スクリーニング分析 : scr-info@jsac.jp

(一社)日本分析機器工業会専務理事宛先

〒101-0054 東京都千代田区神田錦町 2-5-16 名古屋ビル新館 6 階

## 他機関の賞及び助成金の候補者募集

本会は、他機関が贈呈する賞などに会員諸氏の優れた研究業績を推薦するための委員会を設けております。本会の推薦を希望される方は、所定の申請用紙（授賞団体に請求）に記入のうえ、本会締切日までに下記にお申し込みください。同委員会は、申請内容を審査のうえ、当該機関に推薦します。内容の詳細については、下記の授賞団体にお問い合わせいただくか、授賞団体のホームページをご覧ください。本会締切日のないものは、直接授賞団体に提出してください。

## 公益財団法人旭硝子財団研究助成

助成団体：(公財)旭硝子財団（〒102-0081 東京都千代田区四番町5-3 サイエンスプラザ2F, 電話：03-5275-0620, E-mail：research@af-info.or.jp, URL=http://www.af-info.or.jp）〈締切日〉8月下旬。〈助成件数〉2分野合わせ60件程度。〈助成金額〉300万円/1件。〈助成対象・資格〉化学・生命分野, 物理・情報分野の研究。国内の大学とその附置研究所, 大学共同利用機関, 高等専門学校に所属し, 主体的に研究を進めている原則として常勤の研究者。詳細は財団ホームページに記載。

## ブループラネット賞

授賞団体：(公財)旭硝子財団（同上）〈締切日〉10月。〈授賞件数〉2件〈賞金額〉5,000万円/件。〈対象・資格〉地球環境問題の解決に向けて科学技術の面で著しい貢献をした個人または組織。

## 井上學術賞・井上研究奨励賞

授賞団体：(公財)井上科学振興財団（〒150-0036 東京都渋谷区南平台町15-15 南平台今井ビル601, 電話：03-3477-2738, URL=http://www.inoue-zaidan.or.jp）〈締切日〉9月中旬。〈授賞件数〉井上學術賞5件以内, 井上研究奨励賞40件〈副賞〉井上學術賞200万円/件, 井上研究奨励賞50万円/件。〈助成対象・資格〉井上學術賞：自然科学の基礎的研究で特に顕著な業績をあげた50歳未満の研究者, 井上研究奨励賞：過去3年間に, 理学・工学・医学・薬学・農学等の分野で博士の学位を取得した37歳未満であり優れた博士論文を提出した若手研究者。推薦方法, 書式は財団ホームページに記載。

## 井上リサーチアワード

授賞団体：(公財)井上科学振興財団（同上）〈締切日〉7月下旬。〈授賞件数〉4名以内。うち, 1名以上を女性研究者とする。〈助成額〉500万円/人。〈趣旨〉自然科学の基礎的研究で優れた業績を挙げ, 更に開拓的発展を目指す若手研究者の独創性と自立を支援する目的とし, これまでの成果を踏まえ, 単独で又は共同研究者の協力を得て行う将来性豊かな研究計画を対象として助成する。〈助成対象・資格〉自然科学の基礎的研究で博士の学位を取得した研究者で, 学位取得後9年未満であること。国内の国公立大学並びに大学共同利用機関に所属する研究者又は所属予定の研究者であること。詳細は財団ホームページに記載。

## 岩谷直治記念賞

授賞団体：(公財)岩谷直治記念財団（〒100-0011 東京都千代田区内幸町2-2-3 日比谷国際ビル18階, 電話：03-6225-2400, http://www.iwatani-foundation.or.jp/）〈締切日〉8月31日。〈授賞件数〉①一般を対象とした表彰, ②中小企業を対象とした表彰（財団設立50周年記念事業）各々2件以内。〈副賞金額〉500万円/件。〈対象分野・資格〉学会・協会およびその他研究機関等において, 次の項目に関し優れた技術開発が既に完成し, かつ顕著な産業上の実績があると認められた業績；生産プロセスの合理化によるエネルギーの有効利用・効果的な環境保全の達成と顕著な産業上の実績, エネルギーおよび環境に関する独創的技術の開発と顕著な産業上の実績, エネルギー及び環境に関連した新素材・バイオ新技術及びエレクトロニクス新技術の開発と顕著な産業上の実績。

## 岩谷科学技術研究助成

助成団体：(公財)岩谷直治記念財団（同上）〈締切日〉7月31日。〈助成件数〉75件程度。〈助成金額〉200万円/件。〈対象分野・資格〉次の分野に関する独創的な研究。研究の課題：再生可能エネルギー源, 将来に期待される燃料, エネルギーの変換・輸送・利用の高効率化・合理化など, エネルギー材料, 低温の利用, 環境保全・地球温暖化防止・エネルギー利用上の安全性。日本の国・公・私立大学（大学附置または附属研究所を含む）および高等専門学校を主たる所属先とする研究者個人（学生を除く）グループの場合はその代表者が候補者。

## 一般財団法人材料科学技術振興財団山崎貞一賞

授賞団体：(一財)材料科学技術振興財団山崎貞一賞事務局（〒157-0067 東京都世田谷区喜多見1-18-6, 電話：03-3415-2200, E-mail：prize@mst.or.jp, URL=https://www.mst.or.jp/Portals/0/prize/index.html）〈募集期間〉

## お知らせ

2023年3月1日～4月15日。〈授賞件数〉各分野1件以内。〈賞金額〉300万円/件。〈授賞対象〉第23回「計測評価」「バイオ・医科学」。対象分野は「材料」「半導体及びシステム・情報・エレクトロニクス」「計測評価」「バイオ・医科学」の4分野からなり、隔年で2分野ずつ募集。日本国内で研究開発を実施し、論文の発表、特許の取得、方法・技術の開発等を通じて、実用化につながる優れた創造的業績をあげている人（複数人可、総計3名以内）。

### 島津賞

表彰団体：（公財）島津科学技術振興財団（〒604-8445 京都府京都市中京区西ノ京徳大寺町1、電話：075-823-3240、E-mail：ssf@zaidan.shimadzu.co.jp、URL=https://www.shimadzu.co.jp/SSF）〈締切日〉7月31日。〈表彰件数〉1件。〈賞金額〉500万円。〈表彰対象〉科学技術、主として科学計測に係る領域で、基礎的研究および応用・実用化研究において、著しい成果をあげた功労者。

### 島津奨励賞

表彰団体：（公財）島津科学技術振興財団（同上）〈締切日〉7月31日。〈表彰件数〉3件以下。〈賞金額〉100万円。〈表彰対象〉科学技術、主として科学計測に係る領域で、基礎的研究および応用・実用化研究において独創的成果をあげかつその研究の発展が期待される45歳以下の研究者。

### 島津科学技術振興財団研究開発助成

助成団体：（公財）島津科学技術振興財団（同上）〈締切日〉7月31日。〈助成対象・資格〉科学技術、主として科学計測に係る領域で、基礎的研究を対象とし、国内の研究機関に所属する45歳以下（募集開始4月1日時点）の研究者。〈助成件数・金額〉（1）科学計測に係る領域全般：20名、総額2,000万円。（2）科学計測に係る新分野3名以下、総額300万円以下。（2）の対象分野は毎年度、当財団が設定する。

### 猿橋賞（本会締切日：9月30日）

授賞団体：（一財）女性科学者に明るい未来をの会（〒171-0022 東京都豊島区南池袋2-49-7 池袋パークビル1F インスタエア内、E-mail：ホームページより受付、URL=https://saruhashisho.wordpress.com/）〈締切日〉11月30日。〈授賞件数〉1件。〈賞金額〉30万円。〈助成対象・資格〉自然科学の分野で顕著な業績をおさめた女性科学者。50歳未満で国内に在住・在職の女性研究者。第44回猿橋賞候補者の推薦については準備中の為、ホームページ参照。

### 公益社団法人石油学会研究助成

助成団体：（公社）石油学会（〒101-0041 東京都千代田区神田須田町1-8-4 陽友神田ビル4F、電話：03-6206-4301、URL=https://sekiyu-gakkai.or.jp/jp/natural/supportcode.html）〈締切日〉11月30日。〈助成件数〉4件以内。〈助成金額〉100万円以内/件。〈助成対象〉石油、天然ガスをはじめとするエネルギー、石油化学関連の目的基礎研究および応用的研究ならびに開発で、工業化への応用可能性を有するもの。〈資格〉日本国内の大学、工業高等専門学校など研究機関に所属する若手研究者で満40歳未満の者又はグループ。

### 公益財団法人ソルト・サイエンス研究財団研究助成

助成団体：（公財）ソルト・サイエンス研究財団（〒106-0032 東京都港区六本木7-15-14 塩業ビル3F、電話：03-3497-5711、E-mail：saltscience@saltscience.or.jp、URL=http://www.saltscience.or.jp）〈応募期間〉10月25日～11月25日。〈助成件数・金額〉（1）一般公募研究：43件程度、120万円以下/件。（2）プロジェクト研究：5件程度、年間100～200万円/件。〈助成対象〉一般公募研究：理工学、医学及び食品科学の3分野で塩に関する研究。プロジェクト研究（助成期間：原則として3年間）：理工学、医学及び食品科学の各分野で、年度ごとに分野とプロジェクト研究課題を定め募集。〈資格〉日本国内の大学、公的研究機関等で研究に携わる者（学生・研究生等を除く）。

### 鉄鋼研究振興助成

助成団体：（一社）日本鉄鋼協会（〒103-0025 東京都中央区日本橋茅場町3-2-10 鉄鋼会館5F、電話：03-3669-5932、E-mail:josei@isij.or.jp、URL=http://www.isij.or.jp/subcommittee/shinkou2022.html）〈応募期間〉毎年7月。〈助成件数〉35件内、20件程度は若手を優先。〈助成金額〉100～300万円/件。助成金総額年間6,000万円。〈助成対象〉鉄鋼および鉄鋼に関連する材料・プロセスに関する分野の学術及び技術の発展に寄与する研究。〈応募資格〉研究期間中、日本の国立大学、公私立大学、工業高等専門学校等の教育機関に所属し、本国内で研究に従事する研究指導者。

**公益財団法人鉄鋼環境基金 環境研究助成**

助成団体：(公財)鉄鋼環境基金 (〒103-0025 東京都中央区日本橋茅場町 3-2-10 鉄鋼会館 6F, 電話：03-5652-5144, E-mail：sept.senmu@sept.or.jp, URL=http://www.sept.or.jp/)〈応募期間〉4月1日～5月下旬。〈助成件数〉50～60件程度。地球環境分野の研究に重点を置いて、半数にあたる25～30件を地球環境分野の研究への助成目標。〈助成金額〉助成額全体予算を7,500万円(1)一般：150万円以下/件(2)若手：100万円以下/件。ただし、地球環境分野テーマは、若手研究であっても150万円/件。〈助成対象〉鉄鋼製造に関連する環境保全技術課題に関する研究。地球環境問題解決に取り組むための研究分野に重点的に助成を実施。〈資格〉(1)一般：原則として、日本国内にある組織に所属する研究者。(2)若手：日本国内にある組織に所属する研究者。①満年齢39歳以下の者、②博士号取得後8年未満の者。詳細は鉄鋼環境基金ホームページに掲載の募集要綱を参照。

**東急財団研究助成**

授賞団体：(公財)東急財団 (〒150-0031 東京都渋谷区桜丘町 31-14 岡三桜丘ビル 4階, 電話：03-3477-6301, E-mail：foundation@tkk.tokyu.co.jp, URL=https://foundation.tokyu.co.jp)〈締切日〉2021年度の研究助成の公募を休止。〈助成件数〉未定。〈助成金額〉未定。〈助成対象〉未定。新たなミッションである「地域社会の持続可能な発展」を踏まえ、2022年度に向けて「地域の環境課題解決への貢献」を軸とする新しい助成テーマの検討を進める〈資格〉未定。募集を延期中、再開に関しては決まり次第、ホームページで案内。

**東急財団社会貢献環境学術賞**

授賞団体：(公財)東急財団(同上)〈締切日〉推薦公募を休止中。〈授賞件数〉未定。〈賞金額〉未定。〈対象・資格〉顕彰の開始より10余年が経過した現在、学術・研究を取り巻く状況の変化を踏まえ、新しい顕彰テーマの検討を進める為、推薦公募内容が決定後案内予定。

**東レ科学技術研究助成**

授賞団体：(公財)東レ科学振興会 (〒103-0021 東京都中央区日本橋本石町 3-3-16, 電話：03-6262-1655, URL=http://www.toray-sf.or.jp/)〈締切日〉10月上旬〈助成件数〉10件程度。〈助成金額〉3,000万円程度/1件。総額1億3千万円。〈助成対象・資格〉国内の研究機関において理学・工学・農学・薬学・医学(除・臨床医学)の分野で自らのアイデアで萌芽的研究に従事しており、かつ今後の研究の成果が科学技術の進歩、発展に貢献するところが大きいと考えられる若手研究者(原則として推薦時45歳以下)。ウェブサイトへの掲載は、2023年6月中旬を予定。

**東レ科学技術賞**

授賞団体：(公財)東レ科学振興会(同上)〈締切日〉10月上旬。〈授賞件数〉2件以内。〈賞金額〉500万円。〈授賞対象・資格〉理学・工学・農学・薬学・医学(除・臨床医学)関係で、学術上の業績が顕著な方、学術上重要な発見をした方、効果が大きい重要な発明をした方、技術上重要な問題を解決し、技術の進歩に大きく貢献した方。ウェブサイトへの掲載は、2023年6月中旬を予定。

**中谷賞**

授賞団体：(公財)中谷医工計測技術振興財団 (〒141-0032 東京都品川区大崎 1-2-2 アートヴィレッジ大崎セントラルタワー 8F, 電話：03-5719-2125, E-mail：info-award@nakatani-foundation.jp, URL=http://www.nakatani-foundation.jp)〈締切日〉9月15日〈授賞件数〉大賞1件、奨励賞2件。〈賞金額〉大賞1,000万円、奨励賞300万円/件。〈表彰対象・資格〉大賞：医工計測技術について優れた業績を挙げ、現在でも活発な研究活動を行っている研究者。奨励賞：医工計測技術について独創的な研究を行い、将来有望な研究者で応募締切時45歳以下(推薦が必要)。

**中谷医工計測技術振興財団研究助成**

授賞団体：(公財)中谷医工計測技術振興財団(同上)医工計測技術は基盤技術であり、先導的技術開発を促進することは重要と考え、生体に関する医工計測技術を対象研究として、将来実用化が期待される研究に助成。詳細は財団ホームページから募集要綱を参照。研究助成：〈応募期間〉6月1日～7月10日【長期大型研究】〈件数〉1件〈助成金額〉最大6,000万円を最長5年間(総額3億円)。【特別研究】〈件数〉3件程度〈助成金額〉最大2年間3,000万円。【開発研究】〈件数〉20件程度〈助成金額〉最大500万/1件。【奨励研究】〈件数〉30件程度〈助成金額〉200万円/1年間、400万円/2年間。【調査研究助成】〈件数〉5件程度〈助成金額〉2年間で最大300万円。【交流助成】〈応募期間〉募集要綱を参照。【海外派遣】〈助成金額〉1週間程度上限40万円。【日本招聘】〈助成金額〉1週間程度上限50万円。【海外留学】〈助成金額〉滞在費月額50万円+渡航費上限30万円。2023年度より滞在費

## お知らせ

が変更(増額)。【日本留学】〈助成金額〉滞在費月額20万円/1年以上最大2年間。

### 笹川科学研究助成

助成団体：(公財)日本科学協会(〒107-0052 東京都港区赤坂1-2-2 日本財団ビル5F, 電話：03-6229-5365, E-mail：josei@jss.or.jp, URL=https://www.jss.or.jp)〈締切日〉10月中旬頃。〈助成件数〉332件(2022年度)。【学術研究部門】〈助成対象・資格〉人文・社会科学および自然科学(数物・工学, 化学, 生物, 複合, ただし医学を除く)に関する研究を対象。その中でも『海に関係する研究』は, 重点テーマとして支援。日本に居住する35歳未満の大学院生, 雇用研究者(非常勤, 任期付き)。〈助成額〉最大150万円/1件。【実践研究部門】〈助成額〉最大50万円/1件。〈助成対象・資格〉A, 教員・NPO職員等が行う問題解決型研究。学校, NPOなどに所属している方が, その活動において直面している社会的諸問題の解決に向けて行う実践的な研究。B, 学芸員・司書等が行う調査・研究。学芸員・司書等が博物館や図書館等の生涯学習施設の活性化に資する調査・研究を求める。

### ブリヂストンソフトマテリアルフロンティア賞

授賞団体：(一社)日本ゴム協会(〒107-0051 東京都港区元赤坂1-5-26 東部ビル1F, 電話：03-3401-2957, E-mail：office@srij.or.jp, URL=http://www.srij.or.jp/)〈締切日〉11月30日。〈授賞件数〉2件以内。〈賞金額〉50万円/件。〈表彰対象・資格〉ゴム及び将来ゴム技術・ゴム産業に貢献しうる関連分野での先端的研究を奨励し, 「ゴムを極める科学技術の構築」「先端的研究のゴム技術への応用展開」「ゴム産業に関係する地球環境の保全」「ゴム産業を通じた社会への貢献」を図る研究を行っている45歳以下の若手研究者(本会会員に限定しない)に授与。

### 日本ゴム協会科学技術奨励賞

授賞団体：(一社)日本ゴム協会(同上)〈締切日〉11月30日。〈授賞件数〉1件以内。〈賞金額〉20万円/件。〈表彰対象・資格〉ゴム及びその周辺領域に関連する科学・技術に関する基礎業績をもとに, その進歩発展に寄与すると認められる優れた研究を行っている研究者(本会会員)に授与。

### CERI 若手奨励賞

授賞団体：(一社)日本ゴム協会(同上)〈締切日〉11月30日。〈授賞件数〉2件以内。〈賞金額〉25万円/件。〈表彰対象・資格〉ゴム及びその周辺領域に関する分析・解析などの評価及び加工等の科学技術の進歩に寄与する研究を行っている45歳以下の若手研究者(本会会員)に授与。

### バイオインダストリー大賞

授賞団体：(一財)バイオインダストリー協会(〒100-0005 東京都千代田区丸の内1-7-12 サピアタワー8F, 電話：03-6665-7950, E-mail：jba.award@jba.or.jp, URL=https://www.jba.or.jp)〈締切日〉5月6日。〈授賞件数〉1件。〈賞金額〉300万円/件。〈対象案件〉バイオサイエンス, バイオテクノロジーおよびバイオインダストリー分野における自然科学および人文・社会科学領域の研究・技術開発および産業化推進活動で, バイオインダストリーの発展に大きく貢献した, または今後の発展に大きく貢献すると期待される業績。〈対象者〉個人, 企業, 少数の組織・グループ。年齢および所属を問わない。

### バイオインダストリー奨励賞

授賞団体：(一財)バイオインダストリー協会(同上)〈締切日〉5月6日。〈授賞件数〉10件程度。〈賞金額〉30万円/件。〈対象案件〉持続的な社会と未来に貢献するバイオテクノロジー, バイオサイエンスに関連する応用を指向した優れた研究などを行っている有望な研究者とその研究業績を対象。応用の対象分野は, 医薬・ヘルスケア, 食品・農林水産, バイオプロセス開発, 化学・材料, 環境・エネルギー, など。〈対象者〉次の全ての要件に該当すること。1) 大学, 公的研究機関, 非営利の社団法人・財団法人の研究者, 個人での応募に限る。2) 当該年度の4月1日において45歳未満の者。3) 本賞授与の時点で当協会の個人会員であること。

### 三島海雲学術賞

授賞団体：(公財)三島海雲記念財団(〒150-0012 東京都渋谷区広尾1-6-10 ジラッフアビル, 電話：03-5422-9898, E-mail：mishimak15@mishima-kaiun.or.jp, URL=https://www.mishima-kaiun.or.jp)〈締切日〉9月末。〈授賞件数〉(1)自然科学部門2件以内, (2)人文科学部門(1件以内)。〈賞金額〉300万円/件。〈授賞対象〉(1)「食の科学」に関する研究：食品素材, 製造・加工・調理, 発酵・微生物利用, 栄養・嗜好・生理機能, 食の安全, 疾病予防などに係る研究。(2)「アジア地域」の歴史を中心とする人文科学に関する研究(但し日本を中心とする研究は除く。)(資格)45歳未満の者(受賞年4月1日現在)。日本在住の研究者及び海外在住の日本人研究者。人文科学部門は学術書(単著)があること。

## お知らせ

### 三島海雲記念財団学術研究奨励金（研究助成）

助成団体：（公財）三島海雲記念財団（同上）〈締切日〉2月末日。〈助成件数〉自然科学部門（A）個人研究奨励金 80 件程度。（B）共同研究奨励金 6～7 件程度。〈助成金額〉（A）100 万円/件（総額 8,000 万円程度）、（B）200～500 万円/件（総額 3,000 万円程度）。〈助成対象〉食の科学に関する学術研究。食品素材、製造・加工・調理、発酵・微生物利用、栄養・嗜好・生理機能、食の安全、疾病予防などに係る研究を対象とする。〈応募資格〉（A）日本在住の研究者（国籍は問わず）、並びに海外在住の日本人研究者。（B）代表研究者は国内の大学、研究機関に所属することとします。共同研究者は国籍、所属研究機関の所在地（海外も可）を問わず。

問合・本会書類提出先 〒141-0031 東京都品川区西五反田 1-26-2 五反田サンハイツ 304 号  
公益社団法人日本分析化学会他機関賞係〔電話：03-3490-3351〕

---

## 2023年度第2回近畿支部講演会

主催 (公社)日本分析化学会近畿支部, 近畿分析技術研究懇話会  
 期日 2023年7月21日(金)  
 会場 大阪科学技術センター7階701号室〔大阪市西区靱本町1-8-4, 電話:06-6443-5324, 交通:地下鉄四つ橋線「本町」駅下車, 北へ徒歩約7分. うつば公園北詰〕  
 講演  
 1. 受託分析に従事して思うこと—現在と将来—(株)コベルコ科研 磯尾賢太郎  
 2. 高機能抗体の創製を機軸とする生物活性物質の超微量計測(神戸薬科大学) 小林典裕  
 参加費 無料  
 参加申込 標記行事名を題記し, (1) 氏名, (2) 勤務先(所属), (3) 連絡先を記入のうえ, 下記申込先へFAXまたはE-mailにてお申し込みください. なお, 参加証は発行いたしませんので, 当日は直接会場にお越しください.  
 申込先 〒550-0004 大阪市西区靱本町1-8-4 (公社)日本分析化学会近畿支部〔電話:06-6441-5531, FAX:06-6443-6685, E-mail:mail@bunkin.org〕  
 ※変更などの詳細は, 近畿支部ホームページ(<http://www.bunkin.org/>)にてご確認ください.

## 第11回 Chem-Bio Joint Seminar 2023

主催 (公社)日本分析化学会バイオ分析研究懇談会  
 期日 2023年8月4日(金)・5日(土)  
 会場 大学セミナーハウス〔東京都八王子市柚木1987-1, 電話:042-676-8511, <http://iush.jp>〕  
 内容 招待講演, パネルディスカッション, ポスターセッション, 懇談会などを予定しています.  
 プログラム(多少の変更の可能性があります)  
 1日目 8月4日(金)  
 12:00~13:00 受付  
 13:00~13:10 開会の挨拶  
 13:10~16:10 コアセッション1  
 “バイオエレクトロニクスデバイス”  
 ・講演1:早稲田大・三宅文雄  
 ・講演2:東工大・藤枝俊宣  
 ・講演3:東北大・伊野浩介  
 ・講演4:東北大・平本 薫  
 ・パネルディスカッション  
 19:00~ 若手ポスターセッション  
 2日目 8月5日(土)  
 9:30~12:30 コアセッション2  
 “次世代バイオ分析:AIと自動化の融合”  
 ・講演1:明治大・金子弘昌  
 ・講演2:東大・平松光太郎  
 ・講演3:海洋研究開発機構・西川 悠  
 ・講演4:Epistra Inc・都築 拓  
 ・パネルディスカッション  
 13:00~15:00 昼食会・ポスター賞授与  
 15:00 閉会, 解散  
 申込締切日 7月21日(金)  
 募集定員 約70名(定員になり次第締め切りとさせていただきます. お早めにお申し込みください.)  
 申込方法 こちらのフォームからお申し込みください.  
<https://forms.gle/FryaZC2UTLZqCG1a8>  
 問合先 〒153-8902 東京都目黒区駒場3-8-1 東京大学大学院総合文化研究科 広域科学専攻生命環境科学系

吉本敬太郎 [E-mail: keitaro@yoshimotolab.c.u-tokyo.ac.jp]

第383回ガスクロマトグラフィー研究懇談会  
講演会・見学会

主催 (公社)日本分析化学会ガスクロマトグラフィー研究懇談会  
 今回, SPring-8/SACLAにおいて, 講演会・見学会を開催し, 分析化学分野においても活用されている放射光技術に関して, SPring-8/SACLAの現状と可能性をご紹介いただけることとなりました. 多くの皆様のご参加をお待ちいたしております.  
 期日 2023年8月25日(金) 12:30~  
 ※SPring-8周辺には食事ができる場所がございませんので, 昼食を済ませてご来場ください.  
 会場 SPring-8 大型放射光施設  
<http://www.spring8.or.jp/ja/>  
 ・行き:JR相生駅より神姫バス:「相生」駅~「播磨科学公園都市線」バスにて約40分  
 ・帰り:SPring-8より神姫バス:「相生」駅~「播磨科学公園都市線」バスにて約40分

## ご注意

※上記路線のバスは本数が限られますので, 発着時間に十分にご留意ください.  
 ※参加人数によっては貸切バスを用意いたしますが, その際には参加費が変更される可能性がございます.  
 ※車で来場される場合は, SPring-8 守衛所にて所定の手続きを行ってください.

## スケジュール

12:30より 受付  
 13:00より 開会  
 主題講演(3題を予定)  
 15:15 見学会  
 ・SPring-8/SACLA ビームライン  
 ・物理化学研究棟法科学研究グループ実験室  
 17:30 意見交換会

宿泊 意見交換会後, 希望者はSPring-8ゲストハウスにて宿泊(2,000円別途)することができます.

申込方法 GC研究懇談会ホームページからオンラインにて講演会・見学会, 意見交換会への参加申し込み, ゲストハウスでの宿泊希望の申し込みをお願いいたします.

最新情報は, ガスクロマトグラフィー研究懇談会のホームページ(<http://www.jsac.or.jp/~gc/>)をご覧ください.  
 参加人数により, 移動手段等の追加情報をHPに都度掲載, または参加者様宛にE-mailにて連絡いたしますので, ご協力をお願いいたします.

申込締切 2023年8月3日(木)【期日厳守】

募集人数 50名(先着順で締め切ります)

参加費 GC研究懇談会員:無料, 学生・日本分析化学会会員:1,000円, 非会員:3,000円(講演会場にて当日集金いたします).

意見交換会 17:30よりSPring-8ゲストハウスにて, 意見交換会(4,000円程度別途)を行いますので奮ってご参加ください. ※準備の関係上参加の可否を事前にお知らせください.

問合先 (独)酒類総合研究所

岸本 徹 [E-mail: kishimoto.toru.x76@kyoto-u.jp]

## 第40回分析化学中部夏期セミナー

主催 日本分析化学会中部支部  
 期日 2023年9月1日(金)・2日(土)  
 会場 大垣市山村体験宿泊施設『奥養老』(大垣市かみいしづ緑の村公園内)〔岐阜県大垣市上石津町上多良前ヶ瀬入会1-1, 電話:0584-45-2287, 交通 お車でお越しの場合:名神高速道路の関ヶ原ICから国道365号線を四日市・いなべ方面へ約20分 ※無料駐車場完備(お車でのお越しが便利です).〕  
 目的 分析化学および関連分野に携わる研究者間の交流と親睦を図るとともに, 若手研究者の育成と研究発展の一助とする. 必要に応じ新型コロナウイルス感染拡大防止策の上で, 対面で実施する.  
 プログラム(予定)  
 第1日(9月1日)(13.00~17.00頃)  
 支部奨励賞表彰, 招待講演(名古屋大学・馬場嘉信先生), 支部奨励賞受賞講演(金沢大学・西山嘉男先生, 富山大学・佐澤和人先生), 若手依頼講演, ポスドク・プレドク講演.  
 第2日(9月2日)(9.00~12.00頃)  
 ポスター発表, 企業新製品紹介講演  
 定員 80名(定員超過の場合は先着順)  
 申込先 近日中に, 日本分析化学会中部支部HP (<https://www.jsac.or.jp/~chubu/>)に掲載予定.  
 ポスター発表募集締切, 参加申込締切 7月10日(月)  
 講演要旨集原稿締切 7月31日(月)  
 参加費払込締切 7月31日(月)  
 参加費 一般9,000円, 学生6,000円. 参加申込締切日の後に, 送金先をメールでご連絡します.  
 問合せ先 〒501-1196 岐阜市大学西1-25-4 岐阜薬科大学薬品分析化学研究室 江坂幸宏  
 [電話:058-230-8116, E-mail:esaka@gifu-pu.ac.jp]

## 第20回記念生涯分析談話会

主催 生涯分析談話会  
 協賛 LC研究懇談会  
 生涯分析談話会は, 日本分析化学会(JSAC)会員で定年退職された方々と現役のシニアの方々が中心となり, 定年後の再出発や趣味の道に活力をもって生き生きと過ごし, JSACの発展に資するために組織されました. 日本分析化学会第59年会の初日(2010年9月15日, 東北大学)にその第1回を開催して以来, 毎年, 同年会の初日に開催してまいりました. 第9回は第78回分析化学討論会(山口大学常盤キャンパス)の前日(2018年5月25日)に開催し, それ以来, 年に2回(分析化学討論会前日と分析化学会年会初日)開催地区の重鎮の先生方に講演をお願いし, 情報交換会を開催して参加者の親睦を図っております.  
 さて, 今年(2023年)の日本分析化学会第72年会(熊本市)の初日に予定される生涯分析談話会は, 記念すべき第20回目を迎えます. 下記の要領で記念の会を開催いたしますので, これを機に初参加の方々も奮ってご参加くださるよう, よろしく願いたします.  
 なお, 未定の部分は決まり次第, LC研究懇談会のホームページと幹事からのメールでお知らせいたします.  
 会長:中村 洋  
 期日 2023年9月13日(金)  
 記念講演会(16~17時)  
 会場:熊本城ホール3F(第72年会会場)

講師:田端正明(佐賀大学名誉教授・特任教授)  
 題目:まだあるアスベスト, どうする—建材中のアスベストの検出・分析法—

情報交換会(18時から)  
 会場:未定  
 申込先 幹事:田端正明[E-mail:tabatam@cc.saga-u.ac.jp]

第33回基礎及び最新の分析化学講習会と愛知地区講演会  
—多様なイメージング分析法と解析事例—

主催 日本分析化学会中部支部  
 共催 豊橋技術科学大学  
 協賛 日本分析化学会高分子分析研究懇談会, 日本金属学会東海支部, 日本鉄鋼協会東海支部, 日本化学会東海支部, 化学工学会東海支部, 高分子学会東海支部, 色材協会中部支部, 触媒学会西日本支部, 繊維学会東海支部, 電気化学会東海支部, 日本原子力学会中部支部, 日本ゴム協会東海支部, 日本接着学会中部支部, 日本セラミックス協会東海支部, 日本繊維機械学会東海支部, 日本農芸化学会中部支部, 日本防錆技術協会中部支部, 日本薬学会東海支部, 日本油化学会東海支部, 表面技術協会中部支部, 有機合成化学協会東海支部, 東海化学工業会, 愛知工研協会, 東海無機分析化学研究会, 文部科学省先端研究基盤共用促進事業(コアファシリティ構築支援プログラム)

今を生きる私たちは, 外部情報のほとんどを視覚から得ています. スパイクたんばく質が突き出したコロナウイルスの拡大写真を目にしたことはないでしょうか. ミクロな世界観を劇的に変えた電子顕微鏡が本格的に普及しはじめたのは1950年代からで, まだ100年も経っていません. 現在, さまざまなイメージングツールの開発により, ミクロな世界への意識が広がっています. これまで全く見たことがない画像や動画が提出され, 思ってもいなかった測定や分析が可能になってきています. 講義はイメージング分析に携わっている講師がそれぞれの分野での基礎と最新の研究を紹介する内容になっていますので, 奮ってご参加ください. また講習会2日目の午後には引き続き愛知地区講演会として, 最先端の測定法について, 最前線で活躍されている先生にご紹介いただきます. こちらもぜひご参加ください.

期日 2023年9月21日(木)・22日(金)  
 会場 豊橋技術科学大学サテライトオフィス〔豊橋市駅前大通2-81 emCAMPUS 5階(豊橋まちなか図書館と同じビル)〕  
 講義  
 9月21日 10.00~16.00  
 1. 機器分析の潮流と多様なイメージング分析の世界(豊橋技術科学大学) 服部敏明  
 2. 電子顕微鏡イメージング(豊橋技術科学大学) 中野裕美  
 3. イメージングに用いられる色素の構造と機能(豊橋技術科学大学) 加藤 亮  
 4. 蛍光顕微鏡イメージング(豊橋技術科学大学) 吉田祥子  
 5. 超音波顕微イメージング(豊橋技術科学大学) 穂積直裕  
 6. 2次元センサ化学イメージング(豊橋技術科学大学) 服部敏明  
 9月22日 10.00~11.30  
 豊橋技術科学大学 次世代半導体・センサ科学研究所(IRES<sup>2</sup>)の見学および蛍光顕微鏡イメージング法と2次元センサ化学イメージング法の実演(オンラインはありません)

せん)

## 愛知地区講演会

9月22日 13.30~16.40

- ESI-MSによる核酸塩基損傷高感度分析法の開発と薬学・医学への応用 (岐阜薬科大学) 江坂幸宏
- マルチモーダルセンサの展開 (豊橋技術科学大学) 澤田和明
- 特異な分解場を利用する硬化した有機材料のネットワーク構造解析～伝統工芸品から紫外線硬化樹脂まで～ (中部大学) 石田康行

参加費 基礎及び最新の分析化学講習会の参加は有料で、愛知地区講演会の参加は無料です。

分析化学会会員・共催 (一般) 6,000円 (オンライン参加 6,000円)

協賛学協会会員 (一般) 7,000円 (オンライン参加 7,000円)

非会員 (一般) 10,000円 (オンライン参加 10,000円)

主催・共催・協賛学協会会員の学生および院生 3,000円 (オンライン参加 3,000円)

非会員学生 5,000円 (オンライン参加 5,000円)

電子版テキストのみ 5,000円

参加申込方法 <http://www.jsac.or.jp/~chubu/>から申込書 (33 kosyukai-Aichi Kouenkai appform) をダウンロードし、必要事項をご記入のうえ、E-mailにて hattori.toshiaki.ft@tut.jp宛 (E-mail 件名に「基礎最新分析申込」とお書きください) に送信ください。参加費は折り返しご連絡いたします。銀行口座にお振込みください。

申込締切 8月21日 (月)、講習会と講演会はそれぞれ別に申し込みが必要です。現地参加の申込が多数の場合には、講習会の申し込み順によりオンラインで参加をしていただくことがあります。講師との懇話会 (9月22日有料) を愛知地区講演会後に現地近くで予定していますが、状況によっては開催しないことがあります。

問合先 豊橋技術科学大学電気・電子情報工学系 服部敏明 [電話: 052-44-6731, E-mail: hattori.toshiaki.ft@tut.jp]

## 入門触媒科学セミナー

主催 (一社)近畿化学協会触媒表面部会

協賛 (公社)日本分析化学会近畿支部ほか

期日 2023年10月10日 (火)・11日 (水)

会場 大阪科学技術センター7階700号室 [大阪市西区靱本町1-8-4]

## プログラム

第1日 (10日) 10時~17時

- 開会挨拶 (阪大院基礎工) 満留敬人
- 触媒科学の基本概念—これだけは知っておこう— (関西大環境都市工) 池永直樹
- 遷移金属錯体触媒—錯体の基礎と有機合成触媒反応— (奈良女大院自然) 浦康之
- 金属酸化物触媒—多様な触媒機能の宝庫— (京都工織大材料化学系) 細川三郎

交流懇親会 (無料)

第2日 (11日) 10時~17時

- 固体表面の酸・塩基点とその触媒機能 (阪公大 ReCAP) 田村正純
- 金属ナノ粒子触媒—構造と触媒作用及び設計法— (阪大院基礎工) 満留敬人
- 触媒調製化学—基礎から最近のナノ構造触媒まで— (阪大院工) 桑原泰隆
- 閉会挨拶 (阪大院基礎工) 満留敬人

参加費・申込方法 詳細は

<https://kinka.or.jp/catalytic/>

をご参照ください。

申込締切 9月14日 (木)

申込・問合先 〒550-0004 大阪市西区靱本町1-8-4 近畿化学協会触媒・表面部会 [電話: 06-6441-5531, FAX: 06-6443-6685, E-mail: catal@kinka.or.jp]

## 第54回中部化学関係学協会支部連合秋季大会

主催 中部化学関係学協会支部連合協議会

共催 日本化学会東海支部, 日本分析化学会中部支部ほか

協賛 (公財)中部科学技術センター

期日 2023年11月11日 (土)・12日 (日)

会場 三重大学工学部 [三重県津市栗真町屋町 1577]

## 討論主題

[一般研究発表の講演分野]

- 有機化学 (有機合成化学, 理論化学, 薬学, 農芸化学, 油化学を含む)
- 物理化学・無機化学 (錯体, 材料, 触媒を含む)
- 電気化学 (表面技術を含む)
- 分析化学 (環境化学を含む)
- 高分子化学 (繊維, ゴム, 接着を含む)
- 環境とエネルギー (原子力, 防錆を含む)
- 生体関連化学
- 色材
- 油化学
- 化学工学
- その他

[特別討論会の主題]

- SDGs時代の有機化学
- 最先端電池に向けた材料開発と電気化学
- 技術革新を支える分析化学
- 高分子の分子設計と機能設計
- 接着・粘着とゴム・エラストマーにおける研究開発の動向
- 最新のイオン液体の研究開発動向
- 無機材料の色材
- アフターコロナを見据えた表面処理
- 先端生命化学

参加登録費 一般: 予約 8,000円, 当日 9,000円,

学生: 4,000円, 当日 5,000円

発表申込締切 7月28日 (金) (6月上旬から, 大会 Web サイトのみから受付開始)

予稿原稿締切 9月15日 (金)

参加登録予約申込締切 11月10日 (金) (大会 Web サイトのみから予約受付)

その他詳細は大会 Web サイトをご参照ください。

問合先 〒514-8507 三重県津市栗真町屋町 1577 三重大学大学院工学研究科 久保雅敬 (実行委員長), 宮本啓一 (庶務幹事) [電話: 059-231-9480, E-mail: miyamoto@chem.mie-u.ac.jp]

大会 Web サイト

<https://confit.atlas.jp/guide/event/chukaren54/top?lang=ja>

——以下の各件は本会が共催・協賛・  
後援等をする行事です——

◎詳細は主催者のホームページ等でご確認ください。

## 表面分析実践講座 2023

～実践！最新走査電子顕微鏡実習  
実際の作業を通して身につける最新技術～

主催 (公社)日本表面真空学会  
期日 2023年8月9日(水)・10日(木)  
会場 日本電子(株)開発館  
ホームページ <http://www.jvss.jp/>  
連絡先 〒113-0033 東京都文京区本郷5-25-16 石川ビル  
5階 (公社)日本表面真空学会〔電話：03-3812-0266,  
FAX：03-3812-2897, E-mail：office@jvss.jp〕

## 第26回 XAFS 討論会

主催 日本 XAFS 研究会  
期日 2023年9月4日(月)～6日(水)  
会場 立命館大学びわこ・くさつキャンパス  
ホームページ <https://www.jxafs.org/conference/jxafs26/>  
連絡先 第26回 XAFS 討論会実行委員会  
〔E-mail：jxafs26@gst.ritsumei.ac.jp〕

## 腐食防食部門委員会第350回例会

主催 (公社)日本材料学会  
期日 2023年9月11日(月)  
会場 大阪府教育会館たかつガーデン2階コスモス  
ホームページ <http://www.jsms.jp>  
連絡先 〒606-8301 京都府京都市左京区吉田泉殿町1-101  
(公社)日本材料学会〔E-mail：jimu@office.jsms.jp〕

## 第9回材料 WEEK

主催 (公社)日本材料学会  
期日 2023年10月10日(火)～13日(金)  
会場 京都テルサ  
ホームページ <http://www.jsms.jp>  
連絡先 〒606-8301 京都府京都市左京区吉田泉殿町1-101  
(公社)日本材料学会〔電話：075-761-5321, FAX：075-  
761-5325, E-mail：jimu@office.jsms.jp〕

## 第39回近赤外フォーラム

主催 近赤外研究会  
期日 2023年11月14日(火)～16日(木)  
会場 東京大学弥生講堂  
ホームページ <https://jcnirs.org/>  
連絡先 〒305-8642 茨城県つくば市観音台2-1-12 (国研)  
農業・食品産業技術総合研究機構食品研究部門内 近赤外研  
究会事務局〔電話：029-838-8023, FAX：029-838-7996,〕

E-mail：office@jcnirs.org〕

## 「分析化学討論会」特集の論文募集

「分析化学」編集委員会

「分析化学」誌では、毎年第12号に分析化学討論会特集号として、分析化学討論会の討論主題に関連した論文を掲載しております。第83回分析化学討論会では、「生命を観る・測るバイオ分析の最前線」、「“Next Gen”化学センシング～次世代化学センシングの方法論・デバイス開発の最前線～」、「流れ分析法の新展開と社会への貢献」、「より迅速で、より簡便な分析化学を目指して」、「未来の「食」と「薬」を創る分析化学」の5テーマを討論主題として取り上げました。

一方、新型コロナウイルス感染症は、発生から3年余り経た今年5月によりやく5類感染症へと引き下げられましたが、この間、世界中で人々の生活に大きな変化をもたらしました。

そこで2023年度の分析化学討論会特集号では、5つの討論主題を「ポストコロナ時代の分析化学」と位置づけ、第83回分析化学討論会で設けた討論主題5テーマに関する論文を広く募集します。多数のご投稿をお待ちしております。詳細は「分析化学」72巻6号及びホームページをご覧ください。

特集論文の題目：「ポストコロナ時代の分析化学」

特集論文の対象：第83回分析化学討論会討論主題の下記5テーマに関する論文。(討論会での発表の有無は問わない)

「生命を観る・測るバイオ分析の最前線」、「“Next Gen”化学センシング～次世代化学センシングの方法論・デバイス開発の最前線～」、「流れ分析法の新展開と社会への貢献」、「より迅速で、より簡便な分析化学を目指して」、「未来の「食」と「薬」を創る分析化学」

特集論文の原稿締切：2023年8月11日(金)

## 「分析化学」年間特集“分”の論文募集

「分析化学」編集委員会

「分析化学」では2010年より「年間特集」を企画し、節目の15年目に当たる2024年は「分」をテーマとすることと致しました。

本特集では「分」をキーワードとして、基礎・応用を含めた分析化学の“最新の知見”はもちろん、総合論文や分析化学総説といった形で現在の分析化学の“研究の背景”についても広く募集し、分析化学が担う役割を社会に向けて発信することを目的としています。本特集に関わる論文はすべての論文種目で年間を通じてご投稿いただくことが可能で、審査を通過した論文は単行の特集号を除く「分析化学」第73巻(2024年)合併号の冒頭に掲載する予定です。国内外、産学官を問わず、「分」に関わる分析化学の研究・開発に従事されている多くの皆様方からの投稿をお待ちしておりますので、是非この機会をご活用ください。なお、詳細は「分析化学」誌の6号及びホームページをご参照ください。

特集論文の対象：「分」に関連した分析化学的な基礎・応用研究に関する論文。例を以下に示します。

- 1) 環境水や体液といった液体試料を分析するための前処理分離に関する研究、2) さまざまな物質中から測定対象物質を分離抽出する技術に関する研究、3) 環境からの有害物質の除去・有用物質の回収に関する研究、4) クロマトグラフィーに関する基礎・応用研究、5) 分離のシミュレーションを活用した分析化学的研究、6) 生体サンプル中のバイオマーカー検出に関する研究。

特集論文申込締切：2023年7月21日(金) (第1期)

特集論文原稿締切：2023年8月18日（金）（第1期）

## 「分析化学」の掲載料についてのお知らせ

「分析化学」誌では、2020年4月より論文掲載料を以下の計算式にしたがってお支払いいただき、pdfファイルを進呈することになりました。なお、論文の別刷を希望される場合は、別途別刷頒布料金をお支払いいただくことにより購入することができます。

掲載料金計算式（P：印刷ページ数）（単位：円）

会員の場合：30,000+5,000×(P-4)（印刷ページ数が14ページ以上は一律80,000円）

会員外の場合：40,000+5,000×(P-4)（印刷ページ数が14ページ以上は一律90,000円）

\*上記に消費税がかかります。

## ぶんせき誌「技術紹介」の原稿募集

『ぶんせき』編集委員会

分析化学は種々の分野における基盤技術であり、科学や産業の発達・発展だけでなく、安全で豊かな生活の実現に分析機器が大きく貢献してきました。近年の分析機器の高性能化・高度化は目覚ましく、知識や経験がなくても、微量物質の量や特性を測定できるようになりました。この急速な発展は、各企業が持つ高度で多彩な技術やノウハウによって達成されたといっても過言ではありません。一方、高度化された分析機器の性能・機能を十分に発揮させるためには、既存の手法に代わる新規な分析手法が必要であり、高度な分析機器に適合した分析手法や前処理手法の開発が分析者にとって新たな課題となっています。また、分析目的に合致した高純度試薬の開発に加えて、測定環境の整備、試薬や水の取り扱いなどにも十分な配慮が必要です。極微量の試料を分析する際には、測定原理を把握すると共に、手法や操作に関する知識・技能を身に着ける必要があると考えます。

このような背景を鑑み、『ぶんせき』誌では新たな記事として「技術紹介」を企画いたしました。分析機器の特徴や性能、機器開発に関わる技術、そしてその応用例などを紹介・周知することが分析機器の適正な活用、さらなる普及に繋がると考えており、これらに関する企業技術を論じた記事を掲載することといたしました。また、分析機器や分析手法の利用・応用における注意事項、前処理や操作上のコツなども盛り込んだ紹介記事を歓迎いたします。これらの記事を技術紹介集として、『ぶんせき』誌ホームページ内に蓄積することで、様々な分野における研究者や技術者に有用な情報を発信でき、分析化学の発展に貢献できるものと期待しております。分析機器や分析手法の開発・応用に従事されている多くの皆様方からのご投稿をお待ちしております。

### 記

1. 記事の題目：「技術紹介」
2. 対象：以下のような分析機器、分析手法に関する紹介・解説記事
  - 1) 分析機器の特徴や性能および機器開発に関わる技術、
  - 2) 分析手法の特徴および手法開発に関わる技術、
  - 3) 分析機器および分析手法の応用例、
  - 4) 分析に必要となる試薬や水および雰囲気などに関する情報・解説、
  - 5) 前処理や試料の取扱い等に関する情報・解説・注意事項、
  - 6) その他、分析機器の性能を十分に引き出すために有用な情報など
3. 新規性：本記事の内容に関しては、新規性は一切問いません。新規の装置や技術である必要はなく、既存の装置や技

術に関わるもので構いません。また、社会的要求が高いテーマや関連技術については、データや知見の追加などにより繰り返し紹介していただいても構いません。

4. お問い合わせ先：日本分析化学会『ぶんせき』編集委員会  
[E-mail : bunsaki@jsac.or.jp]

## 『ぶんせき』再録集 vol. 1 出版のお知らせ

ぶんせき誌の過去記事の有効利用の一環として、記事をまとめて書籍化するという試みを行っています。2021年5月10日に、『ぶんせき』再録集 vol. 1 が出版されました。この巻には、2011年から2020年まで、10年間分の〈ミニファイル〉の記事が詰まっています。たっぷり256ページ、2,750円（税込み）のお値打ち本です。多岐にわたる『知って得する分析化学の豆知識』を堪能できます。本書は下記10章からなり、それぞれに12から14の話題が集められています。

1. 実験器具に用いられる素材の特徴
2. 分析がかかわる資格
3. 顕微鏡と画像データ処理
4. 最新のweb文献検索データベース
5. ポータブル型分析装置
6. 分析化学と材料物性
7. 分析化学者のための多変量解析入門
8. 土壌分析
9. サンプリング
10. 前処理に必要な器具や装置の正しい使用法

過去のミニファイルをファイリングしておきたいときに、初学者への参考書をお探しのときに、また、非会員の方に分析化学会のアピールをしたいときに、ぜひご利用ください。本書はアマゾンオンデマンド出版サービスを利用して出版した書籍です。書店には並びません。アマゾンサイトからのネット注文のみとなりますので、ご注意ください。ネットで「ぶんせき再録集」と入力して検索しても、すぐに出てきます。詳しくは「ぶんせき」誌ホームページをご確認ください。

## 日本分析化学会第72年会 —オンライン参加予約申込方法—

標記年會を下記のように開催します。本年會に参加される方は、全員参加登録をしてください。年會当日に参加登録証を提示ください。参加登録は、オンライン参加申込登録システム（以下、参加登録システムと略）で行ってください。参加登録の詳細は第72年会実行委員会webサイト（以下、年會webと略）をご参照ください。講演要旨集は電子配布します。講演プログラム集は、年會当日に会場にてお渡しいたします。

### 【日本分析化学会第72年会実行委員会 Web サイト】

<https://confit.atlas.jp/jsac72nenkai>

主催 (公社)日本分析化学会

会期 2023年9月13日(水)～15日(金)

#### 日程

9月13日(水):一般講演(口頭)、テクノレビュー講演(口頭)、受賞講演、シンポジウム、産官学交流カフェ、研究懇談会講演、ランチョンセミナー、機器展示会

9月14日(木):一般講演(ポスター)、若手講演(ポスター)、テクノレビュー講演(ポスター)、ものづくり技術交流会2023 in九州、学会賞等授賞式、学会賞受賞講演、機器展示会、懇親会

9月15日(金):一般講演(口頭)、テクノレビュー講演(口頭)、受賞講演、シンポジウム、研究懇談会講演、ランチョンセミナー、機器展示会

注)日程は変更する場合があります。

会場 熊本城ホール〔熊本市中央区桜町3-40、交通:桜町バスターミナルビル0分、JR「熊本」駅より市電約12分または車約10分、阿蘇熊本空港よりリムジンバス約46分〕

<https://www.kumamoto-jo-hall.jp/access/>

懇親会 9月14日(木)18時～20時(予定)

懇親会会場 ラソールガーデン・熊本

〔熊本市中央区桜町3-50 SAKURAMACHI HILLS 2F〕

#### 【参加登録方法】

以下の注意事項を熟読のうえ、参加登録してください。参加登録の詳細は年會webを参照ください。

1. 参加証は、事前に年會webからダウンロード後、印刷してご持参ください。
2. 懇親会に参加される方は、事前に予約してください。会期中は、定員に余裕のある場合のみ受け付けます。
3. 参加登録料などの諸費用は、一切返金できません。
4. 見積書、納品書、請求書は、原則として発行しません。必要な方は、問い合わせ先(72nenkai@jsac.jp)までご連絡をください。

#### 【事前参加登録のお支払い期日】

決済開始日:7月1日(土)

事前参加登録料でのお支払い期日:8月30日(水)

通常参加登録料でのお支払い期日:9月15日(金)

※8月31日(木)0:00～12:00は、メンテナンスのため決済できません。

#### 【参加登録料・懇親会参加費】

参加登録料 事前(8月30日まで):会員12,000円、学生会員4,000円、会員外21,000円、会員外学生7,000円〔通常:会員15,000円、学生会員6,000円、会員外24,000円、会員外学生8,000円〕

注)会員には団体会員(維持会員)に所属する方を含みます

が、特別会員および公益会員の場合は、1名に限り会員扱いとなります。なお、会員の方の参加登録料は不課税扱いです。会員外、会員外学生は税込金額です。

#### 懇親会参加費

事前:一般10,000円、学生4,000円

〔通常:一般12,000円、学生5,000円〕

※参加者多数の場合、受付を締め切る場合があります。

注)懇親会参加費はすべて税込金額です。

#### 【Web版講演要旨集の閲覧方法】

9月1日(金)に年會webにて公開を予定しております。閲覧には参加登録が必要です。

【ご注意】本年會へ参加登録をされた皆様は、10月14日(土)まで閲覧・ダウンロードが可能です。10月14日以降は閲覧できません

#### その他

講演プログラム集は年會当日に総合受付で参加者にお渡しいたします。なお、講演プログラム速報版を7月下旬に年會HPに掲載の予定です。

#### 【口頭発表者へのご案内】

本年會では、すべての口頭発表において、講演者(登壇者)は講演データの入ったノートPCを持参して発表ください。

#### 【ポスター発表をされる皆様へ】

本年會のポスター発表方法等は、年會HPを参照のうえ準備してください。

#### 【若手ポスター賞について】

若手ポスター発表のなかから複数の優秀なポスター発表を選定し、表彰いたします。

#### 【講演要旨集の発行日について】

日本分析化学会第72年会Web版講演要旨集の発行日は、2023年9月1日(金)を予定しております。特許出願の際は、下記の特許庁ホームページを参照のうえ、弁理士にご相談いただけますようお願いいたします。なお、講演発表者の特許出願にあたり、特許法第30条1項(発明の新規性喪失の例外)の適用を受けるための手続きが簡素化されています。詳細は下記の特許庁ホームページを参照ください。

<http://www.jpo.go.jp>

#### 【宿泊等について】

実行委員会では宿泊先等にかかる斡旋は行いません。

## お知らせ

### 【託児について】

日本分析化学会第72年会では託児所を準備する予定です。希望される方は8月10日(木)までに以下の年会実行委員会事務局まで、メールでお問い合わせください。

#### 開設時間

9月13日(水)~15日(金) 8:30~17:30

託児所 (有) ベビーシッター ハーモニ

お預かり可能年齢 1歳児~小学校低学年のお子様

費用 無料

※その他詳細は年会実行委員会事務局へお尋ねください

### 【シンポジウム】

主催 第72年会実行委員会

日時 9月13日(水)・15日(金)

場所 熊本城ホール(年会会場)

#### 内容

1. 分析化学反応場における酸と塩基  
~酸・塩基の定義から100年~
2. バイオ界面の分析化学
3. 医薬領域の進歩に貢献する分析化学
4. ポストコロナに向けた分析化学

### 【産官学交流カフェ】

主催 第72年会実行委員会

日時 9月13日(水) 時間未定(年会webをご確認ください。)

場所 熊本城ホール(年会会場)

日本分析化学会では、分析化学の多様性を活かし、産・官・学のニーズとシーズをマッチングする場を提供し、連携を加速させ、科学・技術における分析化学の重要性や魅力を発信する役割をめざしています。そのために、産業界や官学の研究者・技術者の交流を進めるきっかけとなる産官学交流カフェを、2019年の千葉年会(第68年会)、昨年岡山年会(第71年会)に引き続き第72年会においても実施します。今回は、産業界、国公立機関、大学から「環境・エネルギー」に関わるニーズやシーズをご紹介いただき、その直後に交流の場を設けることで、意見交換やマッチングをはかりたいと考えています。

### 【女性研究者ネットワーク】

主催 女性研究者ネットワーク、第72年会実行委員会

日時 9月15日(金) 12:15~13:00

場所 熊本城ホール(年会会場)

詳細は、<https://fsnac.jsac.jp/>をご確認ください

### 【第20回記念生涯分析談話会講演会】

主催 生涯分析談話会

協賛 LC研究懇談会

日時 9月13日(金) 16時から

会場 熊本城ホール(年会会場)

#### 記念講演

「まだあるアスベスト、どうする—建材中のアスベストの検出・分析法—」 田端正明(佐賀大学名誉教授・特任教授)

#### 情報交換会

日時 9月13日(金) 18時から

会場 未定

申込先 幹事: 田端正明 [E-mail: tabatam@cc.saga-u.ac.jp]

### 【ものづくり技術交流会2023 in九州】

主催 分析イノベーション交流会実行委員会、(公社)日本分析化学会九州支部

日時 9月14日(木)

場所 熊本城ホール 年会T会場 9:30~14:30

詳細は、年会webをご確認ください。

### 【展示会等出展のお願い】

機器・カタログ展示及びランチョンセミナー

主催 第72年会実行委員会

分析・計測機器関連のメーカー・販売会社、分析技術提供会社、関連書籍出版社と年会参加者の相互交流・情報交換の場として、機器展示会およびカタログ展示会を開催します。

また、年会期間中の昼休みを利用してランチョンセミナーを開催します。展示会およびランチョンセミナーに参加ご協力のほどお願い申し上げます。

#### 【機器・カタログ展示会】

開催日 9月13日(水)~15日(金)

会場 熊本城ホール(年会会場)

募集締切日 7月20日(木)

#### 【ランチョンセミナー】

日時 9月13日(水)・15日(金) 12:15~13:00

会場 熊本城ホール(年会会場)

開催費用 150,000円(税別)

※セミナー運営に関する費用(昼食用弁など)は別途。

募集締切日 7月20日(木)

問合・申込先 〒104-0061 東京都中央区銀座7-12-4(友野

本社ビル) ㈱明報社(担当: 後藤) [電話: 03-3546-1337,

FAX: 03-3546-6306, E-mail: info@meihosha.co.jp]

※機器展示申込方法及びランチョンセミナーの詳細は㈱明報社にお問い合わせください。

### 【お問い合わせ先】

日本分析化学会第72年会実行委員会事務局

〒860-8555 熊本県熊本市中央区黒髪2-39-1

熊本大学理学部

実行委員長 戸田 敬

E-mail: 72nenkai@jsac.jp